

# 朝日の *Asahi Welfare Letter* 社会福祉だより

発行 朝日新聞厚生文化事業団 〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2  
電話 03-5540-7446 ホームページ <https://www.asahi-welfare.or.jp/>

Autumn 2026



朝日新聞厚生文化事業団のHPでもさまざまなお知らせを発信しております。アクセスは右のQRコードからどうぞ

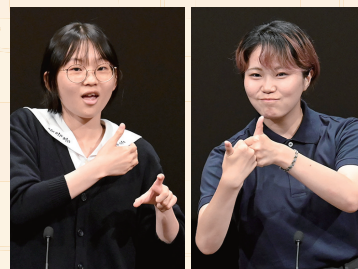
## ともに生きる未来 静かに熱く訴え 全国高校生の手話によるスピーチコンテスト

8月16日に、東京都千代田区の有楽町朝日ホールで「第43回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト」が開かれました。弁論原稿と手話動画による事前審査を通過した10人が出場し、「旅から学んだこと」「身近に感じる社会課題」のいずれかをテーマに、旅先での体験がもたらした自身の変化や、個人や小さなコミュニティが関わった出来事から考

えた社会のあり方を語りました。

1位になった前橋さんは、家族が手話を覚えるなどして「私の住む静かな世界に歩み寄ってくれた」経験を紹介。「耳が聞こえないこと」より「情報が届かないこと」を課題ととらえ、相手を知ろうとして、歩み寄ることの積み重ねが、障がいという壁を消していくと、時には涙を浮かべながら情熱的に訴えました。

終了後の懇親会の一言スピーチでは、多くの参加者が手話を学ぶ同世代と初めて出会ったと話しました。前日リハーサルから緊張をともにし、刺激を与え合い、友情をはぐくんだ2日間は、高校生たちが社会にはばたく糧となることを願っています。



上:前橋真紀さん(1位)、左下:佐藤日向子さん(2位)、右下:新谷綸さん(3位)



終了後の記念撮影

### 出場したみなさん、審査結果

|     |       |               |                     |
|-----|-------|---------------|---------------------|
| 1位  | 前橋真紀  | (山梨・白根高校)     | 「赤いランドセルがくれた勇気」     |
| 2位  | 佐藤日向子 | (新潟・高志中等教育学校) | 「私を支えているもの」         |
| 3位  | 新谷綸   | (埼玉・自由の森学園高校) | 「対等な関係への道」          |
| 奨励賞 | 内藤碧   | (青森・青森高校)     | 「言端から言葉へ」           |
|     | 高田彩夏  | (東京・中央ろう学校)   | 「私が私でいるために」         |
|     | 渡邊ひなた | (愛知・刈谷高校)     | 「誰もが過ごしやすい社会へ」      |
| 出場者 | 平尾優歩  | (滋賀・八幡高校)     | 「共に生きていくために」        |
|     | 村上黎央菜 | (愛媛・松山聾学校)    | 「手のささやきが世界をつなぐとき」   |
|     | 梅田空   | (山口・梅光学園高校)   | 「私の夢」               |
|     | 原彩七   | (鹿児島・志学館)     | 「全ての子どもに安心して学べる場所を」 |



〈写真説明〉吉田理紗さん(左)と宇津百音さん 提供:朝日新聞社

### 夏の甲子園 手話での進行担う

8月5日にあった第108回全国高等学校野球大会の開会式で、2024年、25年にコンテストに出場した吉田理紗さんと宇津百音さん(いずれも済美平成中等教育学校6年)が、手話通訳士3人とともに手話での進行を担いました。大会では初めての試みで、入場行進のアナウンスに合わせて代表校の学校名を伝えるなどしました。

## 事業のご報告

### 熊本地震の被災地支援活動へ助成

7月28日に発生した「令和8年熊本地震」の被災地で、子どもたちのケアを続ける社会的養育の現場を中心に、以下の緊急助成を行いました。(2026年9月現在)

#### 熊本県児童家庭支援センター(児家セン) 協議会(100万円)

- 協議会を通して、現地の各児家センが行う被災した子どもやその家族の生活再建を支える活動に充当。衛生用品など不足している物品や食品の購入費、他地域から応援職員派遣の費用など。

#### 熊本県養護協議会(50万円)

- 早期に復旧した水道設備を活用し、地域住民へシャワーを提供した児童養護施設「八代ナザレ園」。その活動を支えるための水道代や光熱費、県内の加盟施設からの応援スタッフ派遣費用などに充当。

#### 災害時子ども福祉応援金・支援活動救済金(計100万円)

- 八代市、宇城市の児家セン2カ所に各50万円を助成。地域のセーフティーネット維持に活用。支援物資を運ぶためのガソリン代、被災者宅の片付け・災害ごみの運搬費用など。

#### 災害時子ども福祉応援金・生活救済金(計90万円)

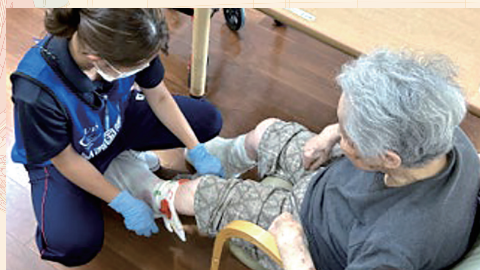
- 被災した里親8名、ファミリーホーム1軒に対し一律10万円を給付。

#### 大学ボランティアセンター活動応援助成(計80万925円)

- 八代市、宇城市で8月に支援活動を行った2大学に、学生派遣のための費用を助成。

→関西国際大学(高齢者施設等への看護ボランティア、生活支援、衛生用品の購入)

→神戸学院大学(被災家屋の片付け、被災ごみの運搬)



宇城市の高齢者施設で温めたタオルを使用したフットケアをする関西国際大学の学生。限られた水資源の中で、在宅看護で培った知識や工夫を生かして快適に過ごしてもらったための支援を行った。

## セミナー

### 「障がい児・医療的ケア児の親と就労」 (6月28日、東京都中央区・オンライン)

「障がい児及び医療的ケア児を育てる親の会」との共催でハイブリッド開催し、約140名が参加。重度障がい児の親でもある都竹淳也・飛騨市長、マルイグループユニオン、荻原製作所の登壇者から、当事者の声を発端とした行政の児童精神科開設や企業の短時間勤務導入、社内ネットワーク構築などの好事例の報告がありました。

## イベントカレンダー

11月7日(土) こどもの心のケアを考える講演会・ワークショップ(石川県珠洲市)

11月8日(日) ハワイのクラフト・おしゃべり会(同)

12月1日(火) 朝日チャリティー色紙展  
～14日(月) (オンライン)

12月12日(土) 第46回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会  
(沖縄県・沖縄市体育館)

12月22日(火) チャリティーコンサート「メサイア」  
(東京都墨田区・すみだトリフォニーホール)



## キャンパスライフ

進学  
応援生  
から

### 看護学部 3年生

現在、成人・母性・精神・地域など様々な領域の実習に参加し、多角的に患者さんと関わる中で、自分が大切にしたい看護観や、将来目指したい診療科が少しずつ明確になってきました。実践を通して看護のやりがいと同時に課題も実感しています。また、国家試験まで一年を切ったため、日々の学習を積み重ねながら基礎知識の定着にも取り組み始め、将来に向けて着実に準備を進めているところです。

### 文学部 1年生

将来は小説の編集者になることを目指しています。編集者は新卒でも就職が難しいので、在学中に出版社でアルバイトをし、まずは経験を積むことを目標にしています。現在はアルバイトを探しやすいのと、資格取得のためにエディタースクールという通信制のスクールを受講しています。スクールの卒業までになるべくたくさんの知識を吸収できるように頑張りたいと思います。